

2011年1月～2015年12月に当院で子宮頸癌に対して放射線治療を受けた方へ

研究 Radiomics の手法を用いた画像解析による子宮頸癌放射線治療効果予測-日本放射線腫瘍学研究機構多施設共同調査研究-の実施について

### 1. 本研究の目的および方法

子宮頸癌の治療法には手術、放射線治療、化学療法があり、病期と病理組織に基づき初回治療法が決定されています。本邦のガイドラインによると病期 IIB 期では手術と化学放射線療法の 2 つが推奨治療となっています。しかし、その選択基準は示されておらず、施設ごとに独自の判断で治療法が決定されています。同じ病期と病理組織型でもその放射線感受性や転移のリスクは個々の腫瘍によって異なるため、治療前に放射線治療効果や転移のリスクを予測することができれば患者さんごとに適した治療法を選択することが可能となり、治療成績向上が期待できます。Radiomics の手法を用いた画像解析は、コンピュータを用い、人間の目では捉えられない画像の特徴量を抽出する技術です。本研究では Radiomics の手法を用いた画像解析により子宮頸癌に対する放射線治療効果および転移のリスクを予測できる特徴量を明らかにします。対象は 2011 年 1 月～2015 年 12 月に下記共同研究施設で子宮頸癌 IIB 期に対して放射線治療を受けられた方です。研究全体の実施期間は当院および共同研究施設の倫理審査委員会承認後～2020 年 3 月 31 日までです。

放射線医学総合研究所病院での実施期間：2019 年 4 月 8 日～2020 年 3 月 31 日

当院の症例数約 20 例、全体の症例数は 300 例です。

### 2. 研究に用いる情報の種類と、得られた情報の取り扱いについて

用いる情報は年齢、病期、病理学的診断、画像診断、放射線治療記録、経過観察結果に関するものです。集積した情報は当院の研究責任者が、氏名や生年月日等の個人情報をも削除した状態で、徳島大学に提供します。他の共同研究施設のデータと合わせて徳島大学で解析を行います。

### 3. 研究組織

徳島大学病院	生島仁史
群馬大学 重粒子線医学センター	大野達也
琉球大学医学部附属病院	有賀拓郎
日本赤十字社 伊勢赤十字病院	伊井憲子
埼玉医科大学国際医療センター	加藤真吾
自治医科大学附属病院	若月 優
筑波大学附属病院	室伏 景子
関西医科大学総合医療センター	播磨 洋子
国立病院機構福山医療センター	兼安 祐子
千葉大学医学部附属病院	宇野 隆
群馬県立がんセンター	安藤 謙
大阪大学医学部附属病院	磯橋 文明
国立がん研究センター中央病院	村上 直也
神戸大学医学部附属病院	吉田 賢史
放射線医学総合研究所病院	小此木 範之

### 4. 研究結果の公表について

本研究の結果は学会や雑誌等で公表することがありますが、公表に際しては特定の研究対象者を識別で

# 情報公開用文書

きないように措置を行った上で取り扱います。

## 5. 研究資金および利益相反管理について

本研究は、徳島大学の研究費と放医研の運営費交付金を使用して実施されます。また本研究には利益相反はありません。

## 6. 本研究への参加を拒否する場合

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方、またはそのご家族は、2019年8月31日までにお申し出ください。この期間を過ぎると個人識別できない情報は取り除けなくなることがあります。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

## 7. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【主たる研究機関】 徳島大学病院

【研究責任者】

徳島大学大学院医歯薬学研究部放射線治療学分野・教授・生島仁史

【当院における研究責任者】

千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院

婦人腫瘍科長 小此木 範之(おこのぎ のりゆき)

電話:043-206-3306(平日 9:00~17:00)